

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

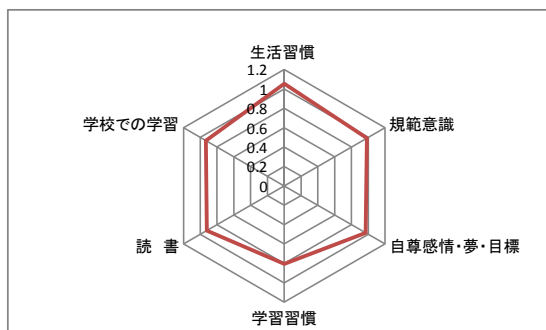
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均正答率を下回っている。 ・正答率の高い児童がいる反面、正答率の低い児童も多いという両極端である。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介するパンフレットを作るため、追加の取材をした理由として適切なものを選択すること。ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択すること。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字で正しく書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読むこと。漢字を正しく書いたり、読んだりすること。 	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均正答率を上回っている。 ・無回答率がすべての問題に関し全国平均よりも少なくなっている。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書くこと。話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿った質問を書くこと。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉えること。目的に応じて、複数の本や文章などを進んで読むこと。 	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、不等号についてはすべての児童が理解できていた。割合や百分率の問題に関しては、課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の問題と、不等号についての問題。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・分数の計算と約分をすること。1を超える割合を百分率で表す場合において、基準量と比較量の関係について問題。 	

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均正答率を上回っている。 ・数と計算領域や図形領域についての知識・理解が高く、応用できる。 ・量と測定の領域や説明をすることに対して課題がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な考え方で説明し記述する問題。 ・図形の構成要素を基に判断し理由を説明する問題。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・角の大きさを基に、式の意味を説明する問題。 ・単位量あたりの問題で、必要な情報を判断し説明する問題。 	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
<p>生活習慣以外は、全国平均を下回っている特に自分で計画を立てて勉強することや予習をする児童の割合が全国平均よりも低い。家庭学習(自主学習)の習慣をしっかり身につける必要がある。しかし、友達に関することについては、全国平均を上回っている。また、自尊感情は高く将来の夢や目標をもっている児童が多い。</p>	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎学力向上のための特設時間の実施 ・中尾タイム(掃除時間後の10分間)で全校一斉に漢字や計算などを行っている。
- ◎過去問題やアシストシートの活用 ・アシストシートやWEB問題を導入で使い、基礎基本の徹底を図っている。
- ◎学習指導の工夫 ・学習の際の話形やノートの取り方を低学年、中学年、高学年の発達段階にあわせて指導している。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭での自主学習を活用し各教科で予習をしていくように進めている。また家庭学習時間を低・中・高で決めている。
- ◎全国学力学習状況調査の課題と取り組み等を保護者に周知し、家庭と連携し協力体制を整え冬休みや春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用していく。